

平成20年度 第1回外部評価委員会報告書

鳥取県立倉吉東高等学校

評 価 日	平成20年5月22日(木)	
	日程と内容(質問・評価・提言等)	学校の所見・改善策等
<p>1 校長挨拶</p> <p>2 概要説明</p> <p>(1) 平成20年度学校経営方針・学校教育目標について</p> <p>(2) 平成20年度年間学校自己評価体制・計画について</p> <p>(3) 平成20年度学校自己評価表について</p> <p>3 意見交換</p> <p>(1) 学校文化度の向上について</p> <p>「朝の立番指導・駐輪指導」は今年度からの実施か? どういう効果があるかと考えるか。</p> <p>生徒に対し、なぜ遅刻がよくないかということ論理的に教員が説明できているか。</p> <p>チューター制度とはどういうものか。</p> <p>現在は新入生4人に対し、上級生2人というグループで進めているとのことだが、以前の1対2から変化させた理由は何か? ま</p>	<p>従来からやっているが、今年はさらに力を入れようと考えて項目を立てた。自然に挨拶を交わしたり、当番の教員の姿を見て急ぐ生徒もおり、望ましい効果があると感じている。</p> <p>自分が時間を守らないことによって、他の人にどのように、また、どれだけ迷惑をかけているのかを説明している。</p> <p>新入生2人に対し、指導的な役割を果たす上級生1人を指名している。合格者登校日に顔合わせをし、入学式までに2回、その後は7月までに6回、計8回のチュータリングを行う。内容は、多岐にわたるが、中学生がスムーズに高校生活に移行できるようなプログラムを組んでいる。また、上級生から下級生に対し学校文化を継承していく一つのシステムでもある。</p> <p>上級生の緊張感はやや薄まったと思うが、負担感は減った。</p>	

た、変化させた効果などは検証できているか。

学校文化度や伝統の継承ということに関して言えば、現代の若者は厳しさに対する耐性が弱くなっていると感じているので、上級生が下級生に対し「厳しさ」を教えることも必要ではないか。そのような観点を教育に取り入れることについてどう考えるか。

読書に力を入れることは望ましいことである。読書が人間形成に大きな影響を与えると思う。小論文の力にもなるだろう。中学では一人当たり年間約14冊程度の貸し出し冊数である。冊数だけにこだわっているわけではないが、倉吉東高ではどうか。

## (2) 進路指導の充実について

「中学と高校の共通理解が不十分」という記述について説明を求めめる。

現状はまさにそのとおりである。ある程度均質化している高校現場の教育と相当に幅の広い学力層を抱える公立中学の現場とでは目指すところは自ずと異なるはずである。勤務している中学では少人数授業を取り入れているが、習熟度ではなく、各クラスとも平均化するような分け方をしている。そうした異質な集まりの

また、上級生と下級生のそりが合わなかった場合やチューターの急な欠席の場合など、リスクをある程度回避できるようになった。チュータリングの効果についてはアンケートを行い、その結果を詳細に分析し、次年度へ生かしている。アンケート結果とその分析についてはHPにも掲載するようにしている。

この意見は本校教育に対する貴重な「提言」であり、今後の本校教育に取り入れたい。

昨年実績で、専攻科生が24.2冊、1～3年では、7.4冊であった。ただし、本校では1、2年に必読図書が各6冊設定されており、それを含めれば、かろうじて10冊程度ということになる。しかし、それでも一昨年度から昨年度へは2500冊以上貸し出し冊数が増加している。

中学教育の目指すものと本校教育の目指すものに差異あるのは当然としても、それぞれの目指しているものをお互いが十分理解できていないということだと考えている。

ほうが伸びるように感じている。

HPに中学生向けのページを作るとあるが、魅力的なページにして欲しい。東中から数多く入学したと聞いているが、学力では十分だった生徒が他校に流れたとも聞く。倉吉東高の良さが十分伝わっていないのではないか。

倉吉東高に関して良いうわさはあまり聞いたことがない。特に受験に関して、生徒自身の受けたい学校を受けさせてもらえないとか・・・。

良い指導をしてもらっていると思う。教員がそのうわさを聞いた時点で反論していないのではないか。

実際に高校現場を見てもらうことが大事ではないか。中学の保護者にどれだけ伝わるかである。中高連携のPTA活動なども考えられる。

見ず知らずの私に三年間毎日欠かさず大きな声で挨拶をしながら通り過ぎていく倉吉東高生を知っている。そういうすばらしい生徒がいることを知ってほしい。

### (3) 専攻科教育の充実について

存廃などの問題が話題となっている専攻科について説明願いたい。

積極的に専攻科の良さをアピールして欲しい。

生徒がその学校を受けたいという意味にもいろいろある。学校の内容というよりも、単なる都会に対する憧れだというような場合には受験は勧めていない。ただし、勧めていないだけで、受験をさせないということではない。

地方公立高校として果たすべき役割を基本に置いた本校教育を誠実に説明しているがそれが「教育＝サービス」と捉える今日の状況ではあまり歓迎されていないのだと考えている。それに迎合することなく、本校の良さや魅力をアピールする方法を考えたい。

単に受験のための知識を教えるところではなく、本当の学びの意味を伝えていくところでありたいと願っている。大学進学実績もその結果として充実したものであるべきである。そうした中で中部地区全体の財産たり得る専攻科としての地位を確立するだけでなく、他地区の生徒も巻き込み鳥取県全体の専攻科としたい。

(4) 定時制教育の充実について

定時制の状況、特に卒業後の進路について説明願いたい。

100名を越えた時期もあったが、現在は約50名である。卒業後の進路については、学科試験を敬遠する傾向があり、在学時にやっていたアルバイトからそのまま正社員へ移行する形が一番多い。家庭に入る生徒、進学する生徒も若干名ある。

(5) その他

第三者評価が導入されるということだが、この自己評価表に書かれていることが教職員全体にどこまで浸透しているのかを測られることにもなるだろう。教員の評価育成制度に自己申告書、自己評価の部分があると思うが、それとこの学校自己評価との関連性はどうか。

教職員の自己申告書の自己目標は基本的に学校教育目標と関連付けて記入することになっており、記入後、学校長が目標面談を行っている。

倉吉東高のことをあまりよく知らない者が外部評価委員として選ばれていることについて疑問に思うが、そのような人選についてどう考えているか。

外部評価として、地域の一般の方がどのように本校を見ておられるのかという貴重な視点を与えていただけたと思う。そういう観点からご意見を数多くいただけることを願っている。